

本県現行計画の取組状況について

A…順調に進捗している
 B…概ね順調に進捗している
 C…やや遅れている
 D…遅れている

国方針	本県現行計画					主な成果と課題
	検証シート掲載	基本施策	R 5 (基準値：R 1) *…基準値がR 2のもの	目標値	評価 (A～D)	
グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成	5	確かな学びを育む教育の充実			B	全国学力・学習状況調査の結果を見ると、ここ数年全国平均と同程度で推移しており、令和6年度は、小・中ともに100.0となっている。しかし成果指標の達成までには至っていないため、引き続き市町教育委員会と連携を図りながら、事業を更に推進していく必要がある。
		幼小カリキュラム接続事業を実施している市町数	20 市町 (17 市町*)	25 市町		
		「全国学力・学習状況調査（文部科学省）」の「教科に関する調査」の各教科の標準化得点の平均値	小6 国・算100.0 (99.5) 中3 国・数・英99.3 (99.7)	平均値が100を上回る		
	9	社会に参画する力を育む教育の充実			C	現実社会の課題に関わる学習など、社会的現象等を自分事として考えることをとおして、児童生徒の主権者意識を醸成するとともに、県の事業では、地域の課題解決に向け、地域への愛着を育む機会の充実を図ってきたが、指定校以外の高等学校への成果の普及が課題である。
		様々な社会問題について、生徒が自分のこととして捉え、社会参画力を育むことを目標とする教育活動を計画・実施している高等学校の割合	52.9% (H30 39.6%)	85%		
	10	キャリア教育・職業教育の充実			C	生徒一人一人が主体的に学ぶ体験活動を取り入れたキャリア教育を推進している高等学校の割合は、感染症の影響もあったが、昨年、今年と数値は伸びている。知的障害特別支援学校高等部の職業教育に係る指導マニュアルに生徒の主体的な取組を促す指導の要点を加えるなどの改善を行い、指導の充実を図った。
		生徒一人一人が主体的に学ぶ体験活動を取り入れたキャリア教育を推進している高等学校の割合	69.0% (57.6%)	100%		
	12	より高度な世界・広い世界に触れる機会の充実			B	留学や海外との交流等を実施した高等学校の割合が増加の傾向にあり、令和6年度における「県立学校短期留学支援事業」及び「高校生短期留学プログラム支援事業」には合計12団体計260名が参加する予定。留学経験者による報告会等の開催が実施できず、高校生への成果普及ができなかったことが課題である。
		留学や海外とのオンラインを通じた交流や研修等を実施した高等学校の割合	45.0% (33.9%)	65.0%		

国方針	本県現行計画				
	基本施策			評価 (A～D)	主な成果と課題
検証シート掲載頁	指標	R 5 (基準値：R 1) *…基準値がR 2のもの	目標値		
誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進	2 人権尊重の精神を育む教育の充実			C	人権や人権教育に関する研修を実施し、教職員の人権意識の高揚を図るとともに、児童生徒向けの啓発資料等を作成・配布し、児童生徒の人権意識の高揚を図った。系統的な人権教育の推進や授業の工夫・改善を目指し、校内体制のさらなる充実を図る。
	「自分にはよいところがあると思う」と答える児童生徒の割合	小 6 85.4% (83.1%) 中 3 82.5% (78.4%)	100%を目指す		
	3 特別支援教育の充実			B	学校の取組への支援や研修の実施等により、教員の実践的な指導力の向上が図られたが、指導力等の状況には差異がある。また、支援情報の引継ぎに係る好事例の周知等により、次の学校段階等との連携の重要性や引継ぎの必要性の理解が進んだが指標の達成は難しい状況。
	中・義務教育学校において、個別的教育支援計画を作成し、高等学校等へ進学した生徒のうち、引継ぎを実施した割合	79.5% (65.0%)	100%		
	4 多文化共生に向けた教育の推進			C	日本語指導が必要な外国人児童生徒に対する、小・中・義務教育学校における特別の教育課程の編成・実施の割合については、基準値とほぼ変わっていない。帰国・外国人児童生徒が増加している現状を踏まえ、各学校における特別の教育課程の編成・実施を含めた更なる指導の充実が望まれる。
	小・中・義務教育学校における日本語指導が必要な外国人児童生徒のうち、「特別の教育課程」による日本語指導を受けている割合	79.2% (78.1%*)	100%		
	6 豊かな心を育む教育の推進			B	高等学校における読書活動を推進するリーダーとして、読書コンシェルジュを育成・任命し、各校における読書活動を推進するなど、同世代への読書への関心を高めることができた(R3～R6 任命者数：206名)。不読率については、基準値から横ばいの状態が続いている。
	1か月に1冊も本(まんが・雑誌を除く。)を読まない児童生徒の割合(不読率)	小 6.3% (7.4%) 中 14.8% (16.1%) 高 49.5% (49.9%)	5%以下 14%以下 40%以下		

国方針	本県現行計画				
	基本施策			評価 (A～D)	主な成果と課題
	検証シート掲載	指標	R 5 (基準値：R 1) *…基準値がR 2のもの	目標値	
	7	健やかな体を育む教育の充実		B	令和5年度の体力合計点では小5女子、中2男女とも全国平均値を上回り、小5男子においても全国平均値との差が縮まるなど、児童生徒の体力は緩やかに向上しているが、授業以外の運動時間が0分の児童生徒の増加など、運動をする子としない子の二極化が見られる。また、食習慣については、朝食を欠食する児童生徒の割合が依然として増加傾向にある。
		新体力テスト体力合計点の本県平均値と全国平均値の差	小5男▲0.47点 (▲1.17点) 小5女0.58点 (▲0.10点) 中2男0.47点 (▲0.37点) 中2女1.49点 (0.35点)	男女とも全国平均値を上回る	
		・朝食を「あまり食べていない」「全く食べていない」割合(小6・中3)朝食を「全く食べない」割合(高3)	小6 5.4% (3.7%) 中3 7.4% (5.4%) 高3 7.2% (5.3%)	0%を目指す	
	8	自己指導能力を育む児童・生徒指導の充実		B	児童・生徒指導推進中央研修会等を通じて、学業指導の周知・啓発等に取り組むとともに、学業指導応援チーム派遣事業を実施し、各学校の取組等について指導助言をした。教職員の指導力が向上し、基準値から増加したが、十分とは言えない。
		「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小6 39.0% (36.0%) 中3 37.8% (35.3%)	増加を目指す	
	14	いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を契機としたスポーツの推進		C	令和6(2024)年度の国スポでは目標の10位台に及ばなかったものの、24競技中6競技8種目で第1位、66種目で入賞した。また、とちぎ国体等を契機としたスポーツへの関心の高まりもあり、スポーツ実施率は上昇傾向にあるものの、家事や子育て等で忙しい30代の実施率が低い状況である。
		国民体育大会での天皇杯・皇后杯の順位	天皇杯 16位 (18位*) 皇后杯 19位 (26位*)	2022年天皇杯皇后杯獲得、その後も19位以内	
		成人の週1日以上スポーツ活動実施率	52.8% (53.5%)	65%	

国方針	本県現行計画					
	基本施策				評価 (A～D)	主な成果と課題
	検証シ ート掲 載頁	指標	R 5 (基準値：R 1) *…基準値がR 2のもの	目標値		
地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進	9	社会に参画する力を育む教育の充実（再掲）			C	現実社会の課題に関わる学習など、社会的現象等を自分事として考えることをとおして、児童生徒の主権者意識を醸成するとともに、県の事業では、地域の課題解決に向け、地域への愛着を育む機会の充実を図ってきたが、指定校以外の高等学校への成果の普及が課題である。
		様々な社会問題について、生徒が自分のこととして捉え、社会参画力を育むことを目標とする教育活動を計画・実施している高等学校の割合	52.9% (H30 39.6%)	85%		
	11	ふるさと自然・歴史・伝統・文化等を学ぶ機会の充実			B	「とちぎふるさと学習資料集（デジタルブック版）」の活用を促進することができた。学習したことを生かして、ふるさと“とちぎ”の魅力を発信したり、課題の解決に向けて取り組んだりする機会の充実に努める。 (とちぎふるさと学習資料集活用実績 R3:95.6% R4:93.3% R5:92.2%)
		フェイスブック「体感!!とちぎの文化財」ページのコンテンツを見たユーザー数（累計）	2,756,584 件 (1,200,939 件)	3,511,000 件		
	13	県民一人一人の生涯学習への支援			C	とちぎ県民カレッジの登録機関数、登録講座数とも増加し、県民に様々な学習機会を提供した。なお、県政世論調査においては生涯学習に取り組む県民が増えたという結果を得ており、引き続き県民の学習機会を充実させ、生涯学習に取り組む県民を増やしていく。 生涯学習をしたことがある県民の割合（県政世論調査） R2:52.8%→R6:59.6%
		とちぎ県民カレッジ年間受講者数（累計）	106,297 人 (74,229 人)	420,000 人		
	18	家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進			C	学校と地域の連携・協働に関するモデル事業を実施し、連携・協働のノウハウをまとめたハンドブックを作成するとともに、周知に努めたが、市町によって取組に差が見られるため、それぞれの実情に合わせた支援を充実させる必要がある。 R6 小・中・義務教育学校における地域学校協働本部カバー率：73.0%
		小・中・義務教育学校における地域学校協働本部カバー率	64.5% (65.0%*)	80%を上回る		
	19	魅力ある県立高校づくりの推進（指標なし）			B	第二期高校再編計画に基づく学校の統合や男女共学化、それに伴う施設整備など、魅力と活力ある県立高校づくりを進めたほか、「STEAM教育推進事業」などを通して、地域等と連携・協働した探究的な学びを推進した。今後も、県立高校の一層の特色化・魅力化を進めていく。

国方針	本県現行計画				
	基本施策				主な成果と課題
	検証シート掲載頁	指標	R 5 (基準値：R 1) *…基準値がR 2のもの	目標値	
教育デジタル トランスフォー メーション (DX)の推進	5	確かな学びを育む教育の充実（再掲）			B
		「全国学力・学習状況調査（文部科学省）」の「教科に関する調査」の各教科の標準化得点の平均値	小6 国・算 100.0 (99.5) 中3 国・数・英 99.3 (99.7)	平均値が 100 を上回る	
	15	学校教育の情報化の推進			C
		I C T活用指導力チェックリストの「授業に I C Tを活用して指導する能力」に関する設問において、「できる」もしくは「ややできる」と回答した教員の割合	78.0% (72.0%)	100% (2022 年度までに 90%以上)	

国方針	本県現行計画					
	検証シート掲載頁	基本施策			評価 (A～D)	主な成果と課題
		指標	R 5 (基準値：R 1) *…基準値がR 2のもの	目標値		
計画の実効性確保のための 基盤整備・対話	1	学校安全の徹底・充実			A	学校管理下における負傷を伴う事故等の発生率は基準値（2019 年発生率 4.01%）を下回り、目標値と同水準で推移しているが、事故の発生率を更に低減させる等、一層の取組の充実が課題である。
		学校管理下における負傷を伴う事故等の発生率(国公私合計)	3.47% (4.01%)	3.46%		
	16	教員の資質・能力の向上			A	高校生や大学生への説明会の拡充等による教員の魅力発信や「学校で働きたい人応援事業」の実施による幅広い人材の発掘に努めた。 教職経験年数に応じた研修について、研修内容や系統性の見直しを行い、基礎的知識の理解、実践的指導力等の更なる向上を図った。
		県総合教育センターが実施した研修について「自身のキャリアステージに応じた資質・能力の向上に役立つ」と回答した教員の割合	81.1% (79.2%)	毎年度 80%を上回る		
	17	学校運営体制の充実			B	35 人以下学級及び少人数指導の実施により、児童生徒一人一人の学習状況を把握しやすくなり、きめ細かな指導が可能となった。また、外部人材の配置拡充等により、時間外在校等時間は減少傾向にあるが、月 80 時間を超える教員が一定数おり、依然厳しい状況である。
		少人数学級及び少人数指導の成果として、きめ細かな指導につながった旨の回答をした小・中・義務教育学校の割合	少人数学級 96.2% (94.9%) 少人数指導 98.9% (97.7%)	毎年度 95%を上回る		
	「業務改善により、教材研究や授業準備、児童・生徒指導に充てる時間が増加した」と回答した公立学校教員の割合	29.3% (24.3%)	50%以上			
	公立学校教員の 1 か月当たりの時間外勤務時間	46.1 時間 (49.5 時間)	45 時間以下			
	20	学校施設・設備の整備			A	栃木県立学校施設長寿命化保全計画に基づき、県立学校施設の屋根や外壁、トイレ等の計画的な改修を実施し、安全安心な学習環境の確保を図った。引き続き、老朽化した施設の長寿命化対策を実施していく必要がある。